



地域から学ぶ私たちの未来

平成30年2月20日発行(昭和51年12月1日発行)

特集 テーマ

地域が学びの舞台 総合的な学習の時間

プラムタイム

宮田村立 宮田中学校の活動

宮田中学校では、地域をテーマに学ぶ「プラムタイム」に取り組んでいます。

宮田村の村政、農業、製造業、商業・特産物、福祉、環境・歴史の各講座の中から興味があり、やりたいテーマを選び、3年間をとおして学びを深めていきます。

長野県の南部、中央アルプス山麓にある宮田村は「梅(プラム)の里」と呼ばれています。宮田中学校は、全校生徒288名(※29年5月現在)の学校です。



1年 宮田村を 知ろう!

調査活動



福祉施設見学
あらためて宮田村ってすごいな、いいじゃんって思うことがたくさんありました。



製造工場見学
宮田村で活躍する人と出会い、もの・ことについて調べる

2年 宮田村を 体験 しよう!

職場体験



食品工場作業
働くことの楽しさや厳しさを体験。自分たちの将来について考える機会となりました。



農園作業
1年時に選択した自分の講座と関連のある事業所で課題をもって職場体験

3年 宮田村を よりよく しよう!

提言



宮田豆腐と特産ワインを食材にした「Mc(ミヤック)バーガー」の名産品化



村議会のことも議会で提案



アサギマダラの里の整備



宮田かるたの商品化 かるた大会の開催

動くってどんなこと? 僕らの将来、ふるさとの未来は? 中学生の視点で地域の課題を考えました

これからの宮田村に何か残るものをつくってほしいなと思いました。

宮田村ふるさとキャリアフォーラムに参加

職場体験を通して感じた働くことの魅力と大変さ、ふるさとに寄せる思いについて真剣に聞き合い、語り合いました



H28年度の取り組みから

食チーム

「食べ物で宮田村を活性化したい」という願いをもち、特産のワインや宮田豆腐などをもっと広めたいと考える中で、名物の商品開発に取り組みました。



Mcバーガーの商品化



豆乳プリンの商品化

宮田とうふの豆乳は味が濃く、とてもまろやかです。時間が経ってもおいしさが持続できるように工夫しました。

伝統文化チーム

村の名所や歴史を巡り地域の方からお話を聞かなくて、村の名所を多くの人に伝えたいという強い願いを持ち、オリジナルのかるたづくりに発展しました。



オリジナルの宮田かるたづくり

地域の方に指導していただきながら最初に読み札を作り、それに合う絵を描きました。

施設チーム



一日喫茶店の開店

来てくれたおじいちゃんが「こんなに美味しいもの初めて食べたよ」と言ってくださって、とてもうれしかったです!

福祉施設を利用されている方をお招きし、喫茶と交流を楽しんでほしい。そんな願いから生まれた一日喫茶店。資金調達やメニューづくりも自分たちでやり遂げました。

地域に根ざした福祉の視点と商店街の活性化に目を向け取り組みました。



うまくいかないことや失敗してしまったこともあったけど、大きなものを学べました。

各校のボランティア・地域活動の紹介

松川村立 松川中学校

地域の誇りとともに

安曇野ちひろ美術館×松川中学校のあゆみ

私たちの学校では、こんな活動をしています。

各校のボランティア・地域活動の紹介

松本市立 旭町中学校

互いの気持ちを通じ合わせて

先輩たちから受け継がれてきた交流



折り紙ワークショップ



水彩技法ワークショップ

松川中学校では、2002年から絵本画家いわさきちひろや世界の絵本画家の作品を展示する「安曇野ちひろ美術館」で、「夏休み中学生ボランティア」を毎年行っています。初年度は77名での活動でしたが、現在は多くの生徒がこの活動を楽しみ、毎年全校生徒の約7割前後が主体的に参加する活動となりました。はじめは美術館のスタッフの方には「中学生が興味を持ってくれるか」「ボランティアに応募してくれるか」という不安があったそうです。長年の活動の積み重ねから「私たちの思いや、活動そのものが本気であれば、松川中学校の生徒はそれに

「やぎと男の子」いわさきちひろ 1969年(安曇野ちひろ美術館) 絵本の読み聞かせ
松川村は土地柄、全国からの観光客も多く、ガイドツアーやワークショップに参加して下さったお客様からは「安曇野の良さを伝えてほしい」「中学生の笑顔が素敵だった」という感想をよくいただきます。この活動を私たちは「松川中の誇り」として今後も続け、大人になって松川村に戻ってきたときも「ほくの」、「わたしの」美術館として様々な形で支えていきたいと思っています。



点字タイプライター体験



サウンドテーブルテニスで交流



松本盲学校の文化祭での合唱

旭町中学校生徒会では、福祉交流委員が中心になり、20年以上前から続けている松本盲学校の中学部の皆さんとの交流をおこなっています。6月には、福祉交流委員みんなで盲学校を訪問しました。点字タイプライターや、視覚に障がいをもつ方が行う卓球「サウンドテーブルテニス」の体験をし、盲学校の皆さんと楽しく交流をしたり、盲学校について深く学んだりすることができました。見えにくさのある生活の中で、皆さんが楽しく元気に生活していることもわかりました。

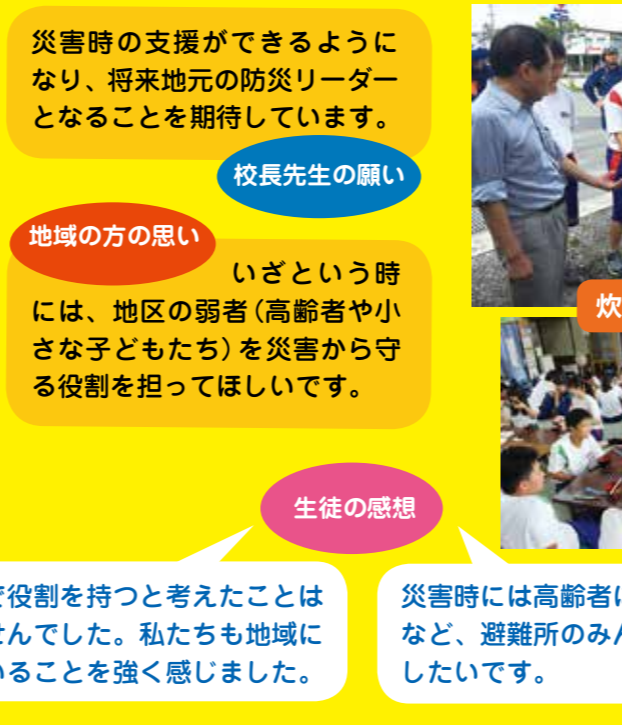
また、福祉交流委員の呼びかけで年間を通してアルミ缶回収活動が続いています。このアルミ缶の収益で、盲学校の皆さんに贈る記念品(卓球用品など)を用意しています。そして、生徒会の伝統的な活動の一つである全校合唱でも松本盲学校で歌い継がれてきた「我がシンボル」を歌ってきました。2学期の校内発表会で行なった、盲学校の皆さんとの交流会で、この曲を全員で一緒に合唱できて、お互いの距離が縮まったように感じました。またこの曲は、松本盲学校の文化祭でも一緒に歌いました。合唱によってさらに交流が深められたので、これからもこの交流を大切にしていきたいです。

地域の願いを実現する防災訓練



穂高東中学校では、7月、地域と連携した避難訓練を行いました。講堂に避難後、各地区担当職員率のもと、各地区消防団の皆さんと一緒に、各地区公民館へ集団下校をしました。
各地区公民館では、区長さんや、地区の役員さん、消防団の皆さんから、防災倉庫にある備品や消火器の取り扱い、担架や簡易テントの使い方、炊き出し等を教えていただきました。
自分が避難所で役割を持つと考えたことは今までありませんでした。私たちが地域に必要とされていることを強く感じました。
災害時には高齢者に声をかけるなど、避難所のみんなを元気にしたいです。

安曇野市立 穂高東中学校の取り組み



災害時の支援ができるようになり、将来地域の防災リーダーとなることを期待しています。
校長先生の願い
地域の方の思い いざという時には、地区の弱者(高齢者や小さな子どもたち)を災害から守る役割を担ってほしいです。
生徒の感想

18歳までの子どもがかかる「子ども専用の電話」
チャイルドライン
フリーダイヤル 0120-99-7777
困っているとき、悩んでいるとき、なんとなく「だれかに話したい」、そんなとき……気軽にかけてください。
★ちょっといいにくいことでも、名前は言わなくていいので安心して話してください。
★お説教はしません。どんなことでも、いっしょに考えます。
みんなにカードが届くよ、フリーダイヤルでかけてね!
チャイルドラインは皆さんの赤い羽根共同募金が設立されています。

あなたのまちのボランティアセンターへ行こう!
●発行/お問い合わせ● ふれあいネットワーク
社会福祉法人 **長野県社会福祉協議会**
〒380-0928 長野市若里7-1-7 県社会福祉総合センター内
TEL.026-226-1882 FAX.026-228-0130
電子メール vcenter@nsyakyu.or.jp
ホームページ http://www.nsyakyu.or.jp
公益社団法人 **信濃教育会**
〒380-0846 長野市旭町1098 TEL.026-232-6994
ホームページ http://www.shinkyu.or.jp/
やまびこだよりは、長野県社会福祉協議会のホームページからPDFファイルおよび音源データとしてダウンロードできます。
<http://www.nsyakyu.or.jp>